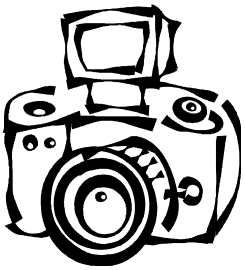
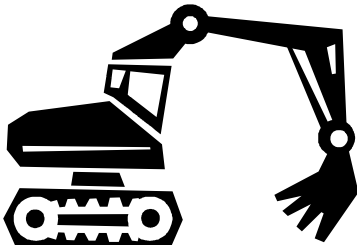
公共ます等設置工事施工記録写真作成マニュアル





安城市　下水道課

もくじ

Ⅰ	目的	・・・	1
Ⅱ	撮影方法	・・・	1
Ⅲ	整理・編集	・・・	2
Ⅳ	提出	・・・	3
	別表１(公共ます)	・・・	4
	別表２（取付管）	・・・	5
	別表３（舗装復旧）	・・・	6
	撮影例（公共ます）	・・・	7
	撮影例（取付管）	・・・	11
	撮影例（舗装復旧）	・・・	21

Ⅰ　目的

このマニュアルは、安城市公共下水道事業および農業集落排水事業（以下「下水道事業」という。）における公共ます等設置工事の適正化をはかるため、工事記録写真の撮影および整理等について基本的な事項を定めるものである。

Ⅱ　撮影方法

1　写真の分類

工事記録写真は原則として状況写真、品質管理写真、出来形管理写真とすること。

なお、撮影にあたっては、図1の撮影表示板を入れること。

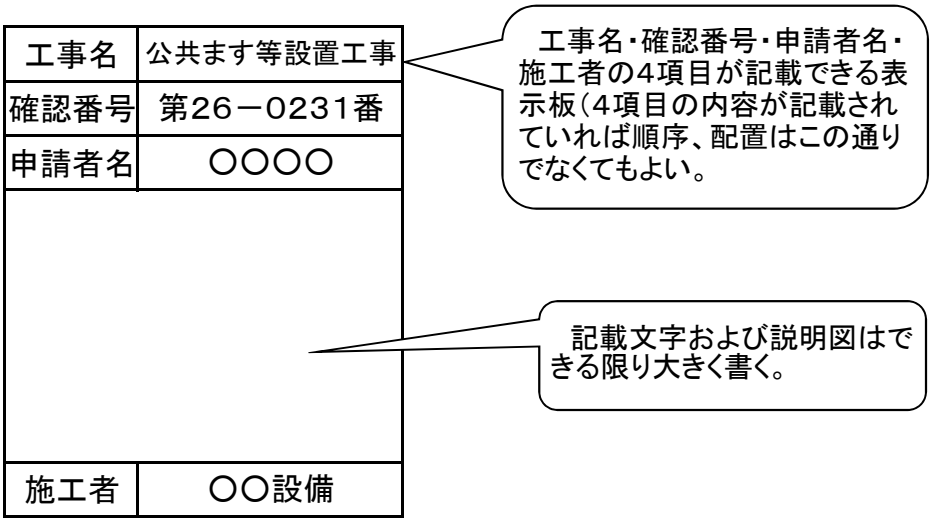


図1

①状況写真

施工の位置および状況が容易に確認できるよう家屋等を背景に入れて撮影すること。

※着前、完了、施工状況

②品質管理写真

規格・寸法等を撮影する必要がある場合は、近距離から撮影すること。

※タイル、インターロッキング等で新材使用の場合等

③出来形管理写真

形状・寸法が判定できるように、寸法を示す器具（箱尺、リボンテープ等）を入れて撮影すること。

2　撮影箇所

撮影は、「別表1～3」に示す箇所のほか、市監督員が指定する箇所および記録に残す必要がある箇所とする。

3　撮影時期

撮影は、工事の施工内容を把握して、施工前、施工中（施工状況）、施工後の適切な時期に撮影する。

4　その他

①写真サイズ等

写真は、カラー写真とし、サイズはサービス版を指標とする。

有効画素数は、撮影表示板の文字が判読できることを標準とする。

②緊急時

事故・災害時等緊急にその状況を報告する必要のある場合は、インスタント写真等でも可能とする。

③夜間工事

やむを得ず、夜間施工する場合は、その状況等が判別できるような写真であること。

Ⅲ　整理・編集

1　写真帳

写真帳の大きさは、A4版とし、インクジェット紙を標準とする。

2　写真の整理

写真帳は、1項に3枚貼付を原則とし、公共ます、取付管、舗装本復旧の施工ごとに図2のように綴る。

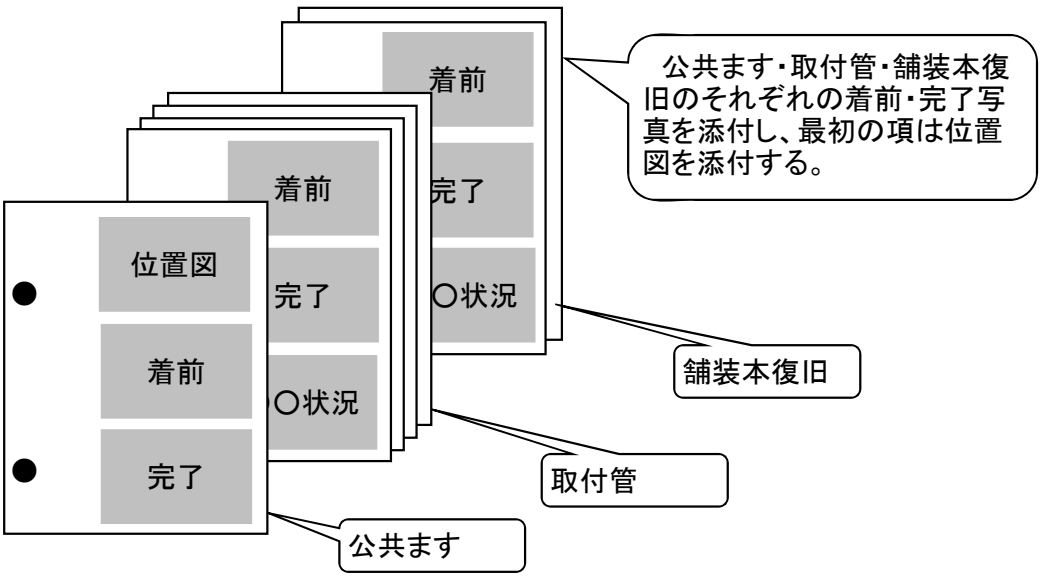


図2

Ⅳ　提出

１　写真帳の提出

①提出時期
　工事が完了したときは、工事完了報告書兼検査調書とともに、監督員に提出すること。

②提出部数
　工事完了時、原則１部提出すること。ただし、道路占用等で必要な場合は、監督員の指示により必要部数を提出すること。

２　データの保存

　施工者は、写真データを整理し、当該工事の検査完了後１年間保存し、必要な場合は検査完了後においても提出できるように保存しておくこと。

別表　1

公共ます

撮影表示板内容	時期	頻度	注意事項	チェック欄
着手	着手前	1枚/箇所	着手、完了は同アングルで撮影する	
完了	完了時	1枚/箇所	公共ますの位置が確認できる	
砂基礎	設置後	1枚/箇所	ます底部の砂（T＝10cm）が確認できる ※検測不要	
ます底部設置	設置後	1枚/箇所	ます底部設置後、ます深を検測し規格・寸法が確認できる（砂基礎写真で確認できれば不要）	
砂巻立基礎	設置後	1枚/箇所	取付管上10cmの砂が確認できる	
コンクリート切断	切断後	1枚/箇所	コンクリート厚検測写真で切断部すべてが確認できれば不要	
コンクリート取壊し	取壊後	1枚/箇所	取壊したコンクリート厚を検測する	
コンクリート復旧	復旧前	1枚/箇所	復旧するコンクリート厚を検測する	
アスファルト舗装切断	切断後	1枚/箇所	アスファルト舗装厚検測写真で切断部が確認できれば不要	
アスファルト舗装撤去	撤去後	1枚/箇所	撤去したアスファルト舗装厚を検測する	
アスファルト舗装復旧	復旧前	1枚/箇所	復旧するアスファルト舗装厚を検測する	
インターロッキング撤去	撤去後	1枚/箇所	撤去したインターロッキングの寸法を検測する	
インターロッキング復旧	復旧前	1枚/箇所	復旧するインターロッキングの規格・寸法を検測する	
樹木移植	移植前	1枚/本	樹木の高さを検測する	
樹木移植	移植前	1枚/本	樹木の仮置き状況が確認できる	
樹木移植	移植後	1枚/本	移植後の状況が確認できる	
樹木撤去	撤去前	1枚/本	樹木の高さを検測する	
公共ます土留工	設置後	1枚/箇所	土留め工の設置完了状況が確認できる	
その他				

この表は、標準的な公共ます設置工事に適用しますので、庭石の撤去・タイル復旧等の特殊な工事等および記録に残す必要がある箇所については追加してください。

別表　２

取付管

撮影表示板内容	時期	頻度	注意事項	チェック欄
着手	着手前	1枚/箇所	着手、完了は同アングルで撮影する	
完了（ライン復旧後）	仮復旧完了時	1枚/箇所	舗装復旧全体が確認できる ※ライン復旧完了後に撮影する	
アスファルト舗装切断1	切断中	1枚/箇所	濁水処理状況が確認できる ※処理場の写真又はマニフェストを提示する	
アスファルト舗装切断2	切断後	1枚/箇所	切断箇所が確認できる ※舗装掘削で切断箇所が確認できれば不要	
アスファルト舗装撤去	撤去中	1枚/箇所	舗装掘削状況が確認できる	
アスファルト舗装厚検測	撤去後	1枚/箇所	アスファルト舗装厚が確認できる	
掘削	掘削中	1枚/箇所	掘削、積込の機種が確認できる	
矢板長検測	設置前	1枚/箇所	矢板長が確認できる ※掘削深＋根入れ20cm程度必要	
矢板設置完了	設置後	1枚/箇所	穿孔・支管設置・検測写真で確認できれば不要	
穿孔完了	穿孔後	1枚/箇所	面取り後撮影する	
取付支管接着剤塗布	塗布完了後	1枚/箇所	接着部全面に塗布されている	
取付支管設置	設置後	1枚/箇所	番線締め付け後撮影する	
本管土被り検測	掘削後	1枚/箇所	本管土被りを検測する	
取付管土被り検測1	設置後	1枚/箇所	曲管部の土被りを検測する	
取付管土被り検測2	設置後	1枚/箇所	官民境界部の土被りを検測する	
本管離れ検測	設置後	1枚/箇所	官民境界から本管までの離れを検測する	
人力転圧状況	埋戻し中	1枚/箇所	管上10cmまでの人力転圧状況が確認できる	
人力転圧完了	埋戻し後	1枚/箇所	管上10cmまでのGLからの下がりが確認できる	
本管埋設テープ設置	設置後	1枚/箇所	管上30cmに埋設テープを設置後撮影する	
埋戻し完了	埋戻し後	1枚/各層	各層の転圧完了後、GLからの下がりを検測する	
取付管埋設テープ設置	設置後	1枚/箇所	管上30cmに埋設テープを設置後撮影する	
下層路盤	埋戻し後	1枚/各層	各層の転圧完了後、GLからの下がりを検測する ※一層の転圧が20cm以下	
仮復旧厚検測	復旧前	1枚/箇所	下層路盤転圧完了後、GLからの下がりを検測する	
仮復旧完了	復旧後	1枚/箇所	仮復旧の状況が確認できる	
保安設備	施工中	1枚/設置箇所	工事案内板、規制標識、迂回路案内図、保安設備および交通整理人等を撮影する	
その他			上水道同時施工の場合、官民境界から上水道本管までの離れを検測する。	

この表は、標準的な取付管設置工事に適用しますので、マンホール接続等の特殊な工事および記録に残す必要がある箇所については追加してください。

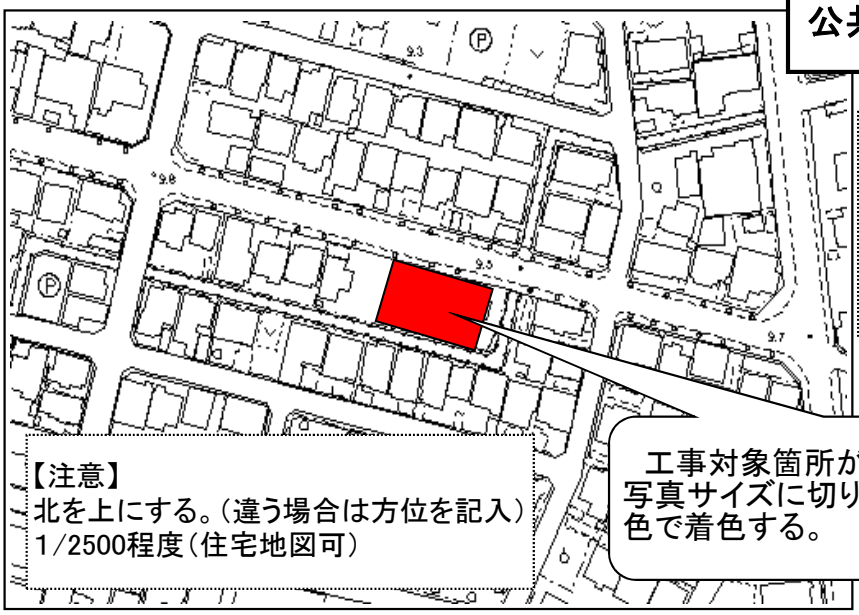
別表　3

舗装本復旧

撮影表示板内容	時期	頻度	注意事項	チェック欄
着手（仮復旧まで）	本復旧着手前	1枚/箇所	着手、完了は同アングルで撮影する	
完了（検測）	完了後	1枚/箇所	舗装本復旧全体が確認でき、寸法が確認できる	
アスファルト舗装切断	切断中	1枚/箇所	濁水処理状況が確認できる ※処理場の写真又はマニフェストを提示する	
アスファルト舗装厚検測	不陸完了後	1枚/箇所	GLからの下がりを検測する	
プライムコート散布完了	散布完了後	1枚/箇所	全面の散布状況が確認できる	
タックコート塗布完了	塗布完了後	1枚/箇所	既設舗装等側面の塗布完了状況が確認できる	
舗設状況	舗設中	1枚/箇所	舗設の状況および機種が確認できる	
インターロッキング撤去	撤去後	1枚/箇所	撤去したインターロッキングの寸法を検測する	
インターロッキング復旧	復旧前	1枚/箇所	復旧するインターロッキングの規格・寸法を検測する	
保安設備	施工中	1枚/設置箇所	工事案内板、規制標識、迂回路案内図、保安設備および交通整理人等を撮影する	
その他			上水道、ガス等と同時施工の場合、各埋設物の離隔を検測する。	

この表は、標準的な舗装工事に適用しますので、平板ブロック等の特殊な工事および記録に残す必要がある箇所については追加してください。

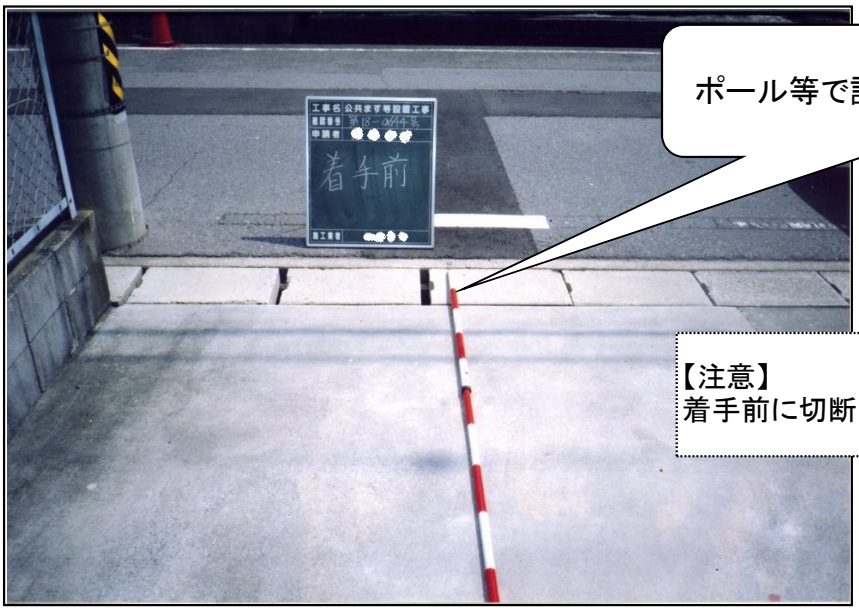
公共ます等撮影例



【注意】
余白欄は記入しない。
（黒板記載内容の訂正等、説明が必要な場合のみ記入）

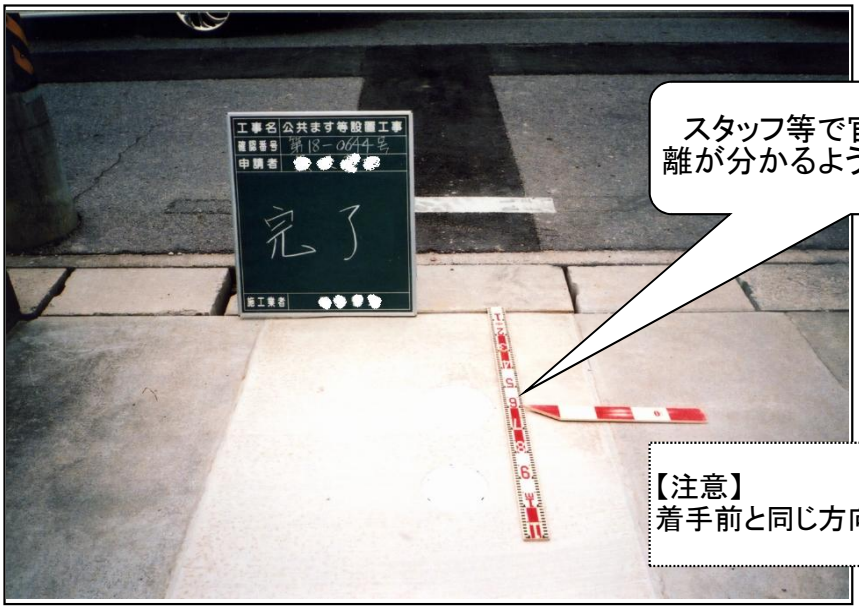
【注意】
北を上にする。（違う場合は方位を記入）
1/2500程度（住宅地図可）

工事対象箇所が中心となるように写真サイズに切り取り、敷地等を赤色で着色する。



ポール等で設置箇所を示す。

【注意】
着手前に切断しない。

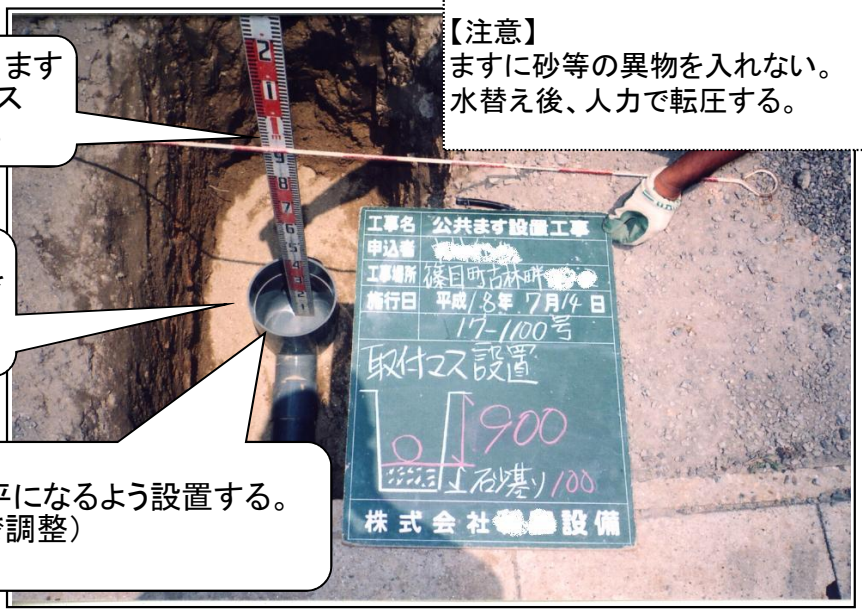


スタッフ等で官民境界からの距離が分かるように撮影する。

【注意】
着手前と同じ方向から撮影する。

施工時のGLから、ますの深さが分かるようスタッフ等で検測する。

【注意】
ますに砂等の異物を入れない。
水替え後、人力で転圧する。



砂基礎が確認できる。

上面が水平になるよう設置する。（自在継手で調整）

【注意】
人力転圧後、撮影する。

砂巻立基礎が確認できる。（取付管上10cm　※ます底部が埋まる位）

【注意】
CO等の切断部が確認できる。
公共ます設置部全体を撮影する。
※アスファルト舗装も同じ

既設CO厚等が確認できる。

【注意】
公共ます設置部全体を撮影する。
十分に転圧し、床均し後に撮影する。
※アスファルト舗装も同じ

CO復旧厚等が確認できる。

【注意】
撤去のみの場合も樹高を検測し、撮影する。

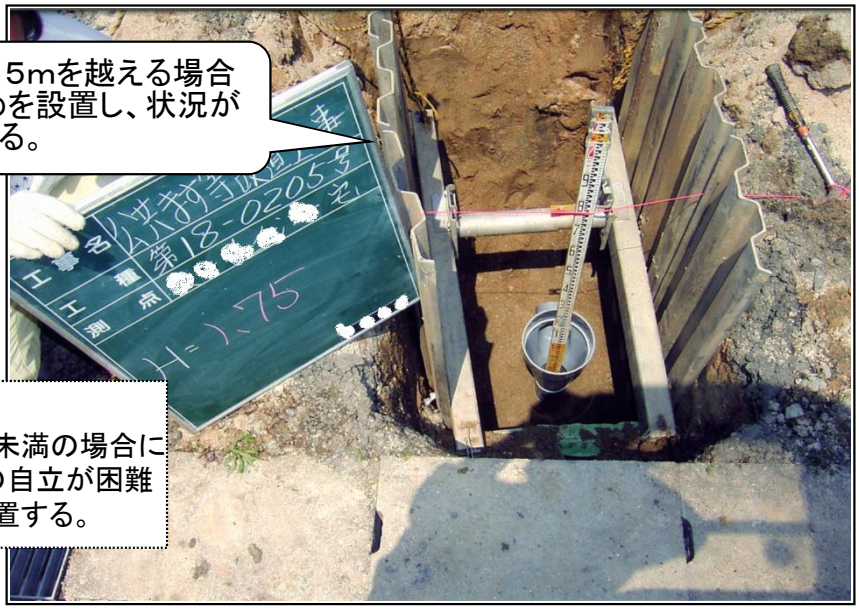
スタッフ等で移植（撤去）する樹木の高さが分かるように撮影する。

移植する樹木の仮置き状況が分かるように撮影する。

移植後の樹木の状況が分かるように撮影する。

【注意】
樹木全体を撮影する。

掘削深さがH＝１．５mを越える場合は、矢板等の土留めを設置し、状況が分かるように撮影する。



【注意】
掘削深がH＝１．５m未満の場合においても、掘削断面の自立が困難な場合は土留めを設置する。

この撮影例は、標準的な公共ます設置工事に適用しますので、庭石の撤去・復旧等の特殊な工事等および記録に残す必要がある箇所については、状況、規格・寸法、形状・寸法を撮影し、完了時に他の写真とともに提出してください。

取付管撮影例

ポール等で設置箇所を示す。

【注意】
余白欄は記入しない。
（黒板記載内容の訂正等、説明が必要な場合のみ記入）

【注意】
取付管工事のみ（ます工事無）の場合は、ここに位置図を添付する。

【注意】
着手前に切断しない。
既設舗装継目が分かるよう撮影する。

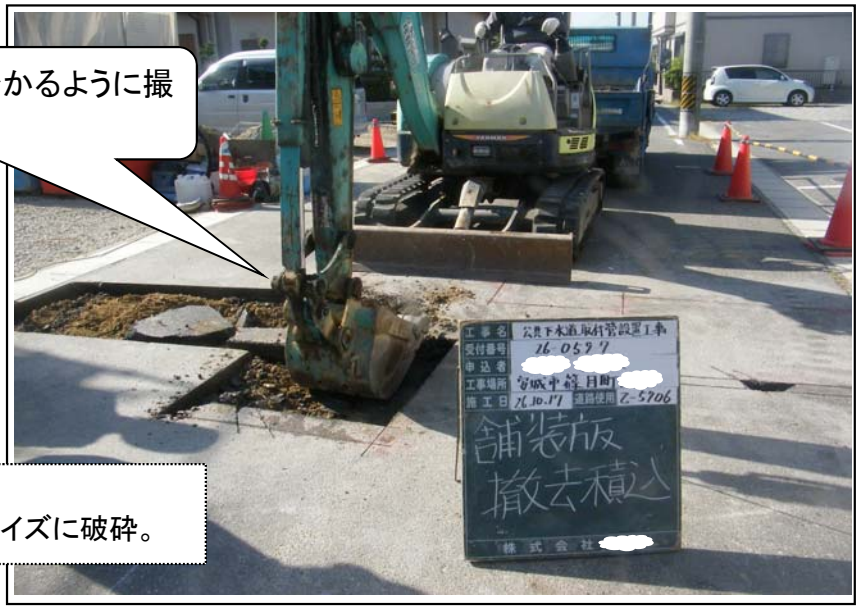
区画線復旧完了後に撮影する。

【注意】
着手前と同じ方向から撮影する。
復旧した部分全体を撮影する。

濁水処理状況が分かる。

【注意】
処理場の写真又はマニフェストを提示する。

舗装掘削状況が分かるように撮影する。

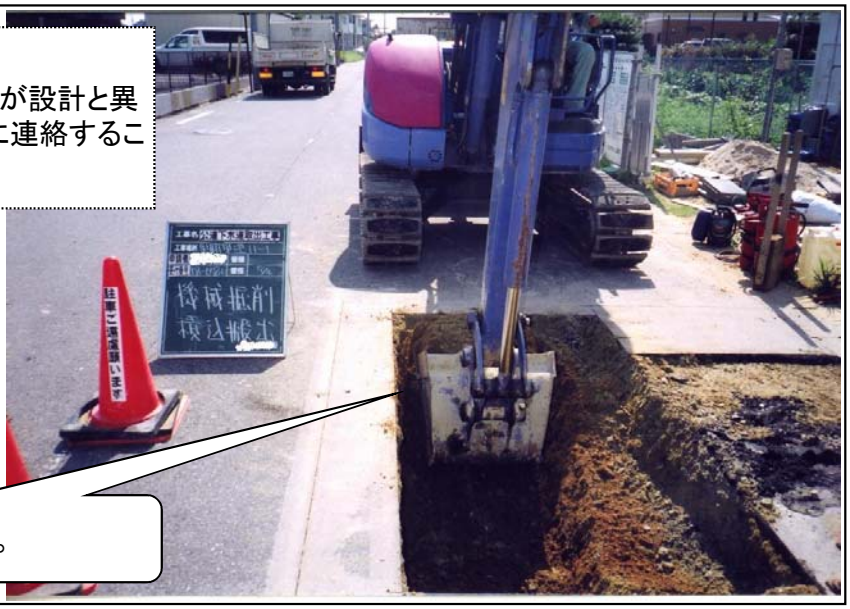


【注意】
バケットに収まるサイズに破砕。

【注意】
最大厚でなく、平均部分を検測する。

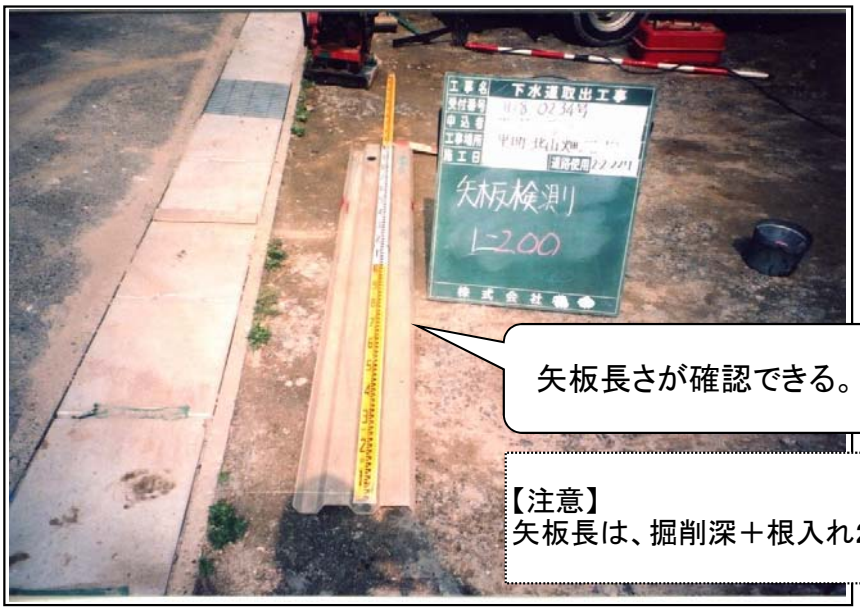
舗設厚が分かるように撮影する。

【注意】
舗装構成（路盤厚含む）が設計と異なる場合は、市監督員に連絡すること。



掘削状況が分かる。

積込状況が分かる。



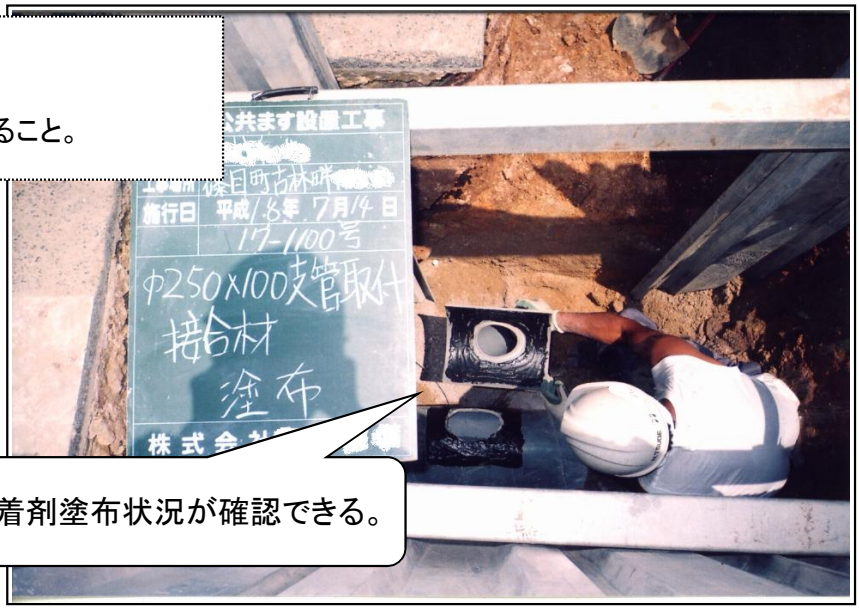
矢板長さが確認できる。

【注意】
矢板長は、掘削深＋根入れ20cm程度必要。

【注意】
上下流1mに継手等が無いこと。
穿孔部がギザギザにならないこと。
面取り後に撮影する。
本管に荷重をかけないこと。

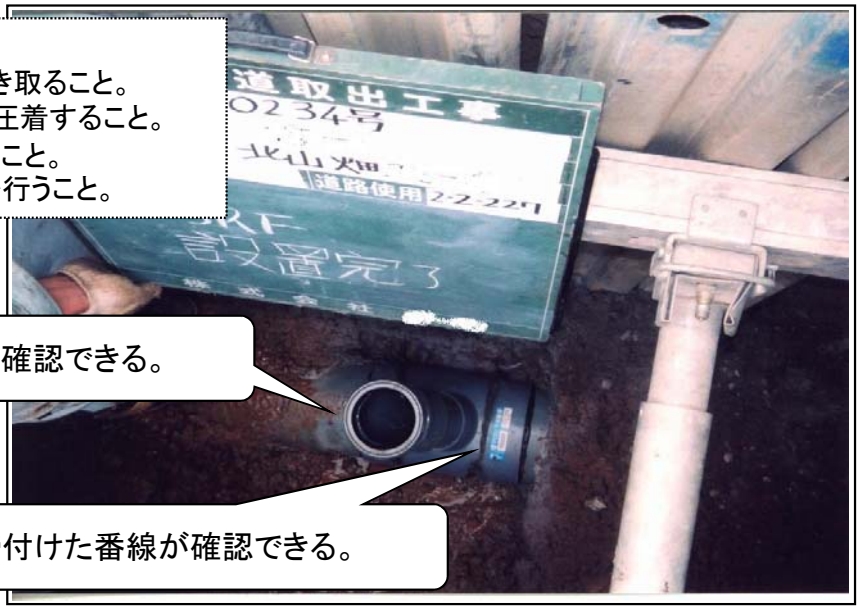
穿孔及び面取り状況が確認できる。

【注意】
水分を拭き取ること。
支管接合部に均一に塗ること。



接着剤塗布状況が確認できる。

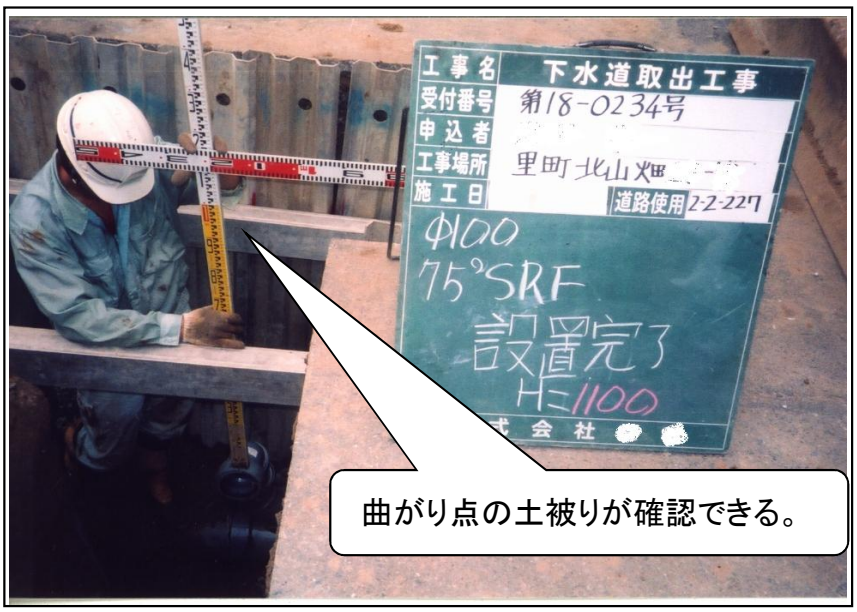
【注意】
はみ出した接着剤は拭き取ること。
番線で十分に締め付け圧着すること。
出きるだけ早く埋め戻すこと。
湧水が出たら、水替えを行うこと。

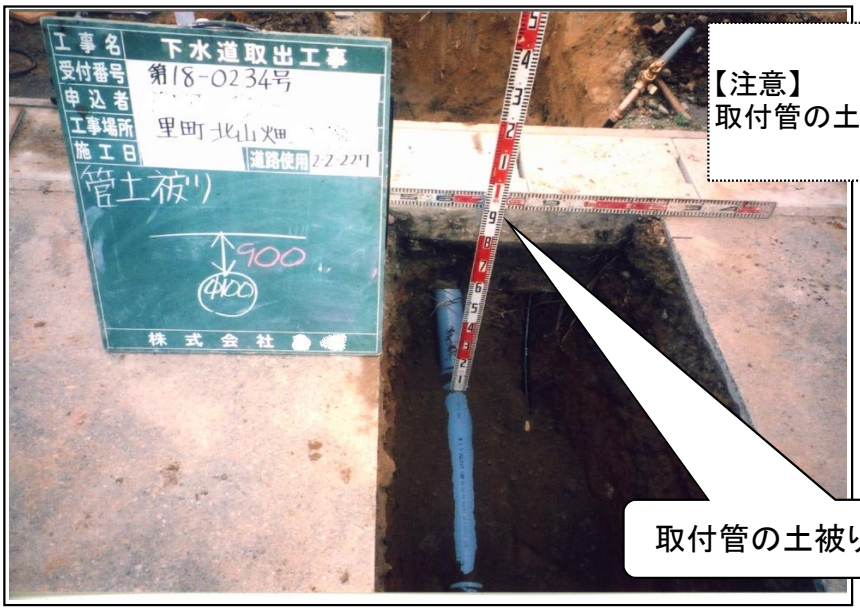


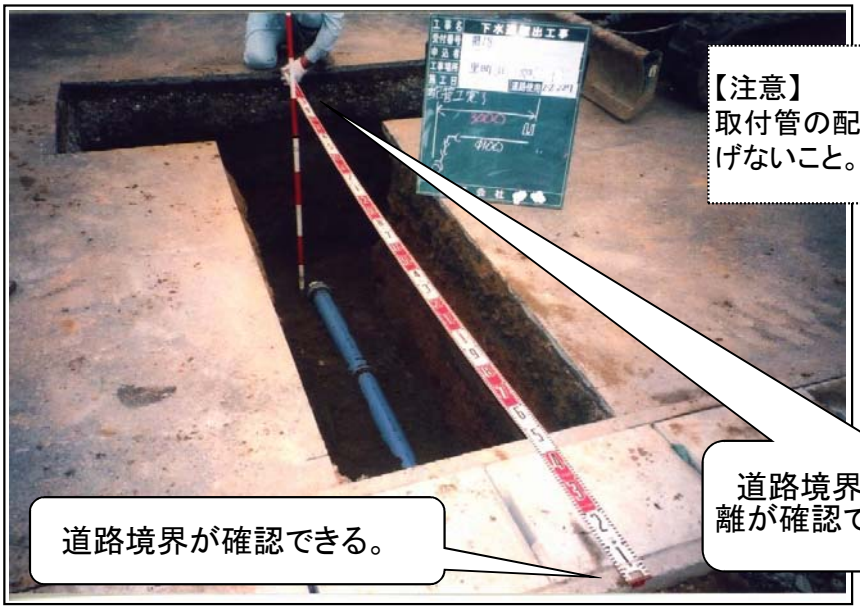
支管取付状況が確認できる。

締付けた番線が確認できる。

本管の土被りが確認できる。


工事名 下水道取出工事
受付番号 第18-0234号
申込者
工事場所 里町北山畑
施工日 道路使用2-2-227
Φ100
75°SRF
設置完了
H=1100
株式会社
曲がり点の土被りが確認できる。


工事名 下水道取出工事
受付番号 第18-0234号
申込者
工事場所 里町北山畑
施工日 道路使用2-2-227
管土被り
900
Φ100
株式会社
【注意】
取付管の土被りは80cm以上。
取付管の土被りが確認できる。


【注意】
取付管の配管は無理に受口を曲げないこと。
道路境界から本管までの距離が確認できる。
道路境界が確認できる。

道路境界から本管までの距離が確認できる。

【注意】
水道工事と同時施工の場合に撮影する。

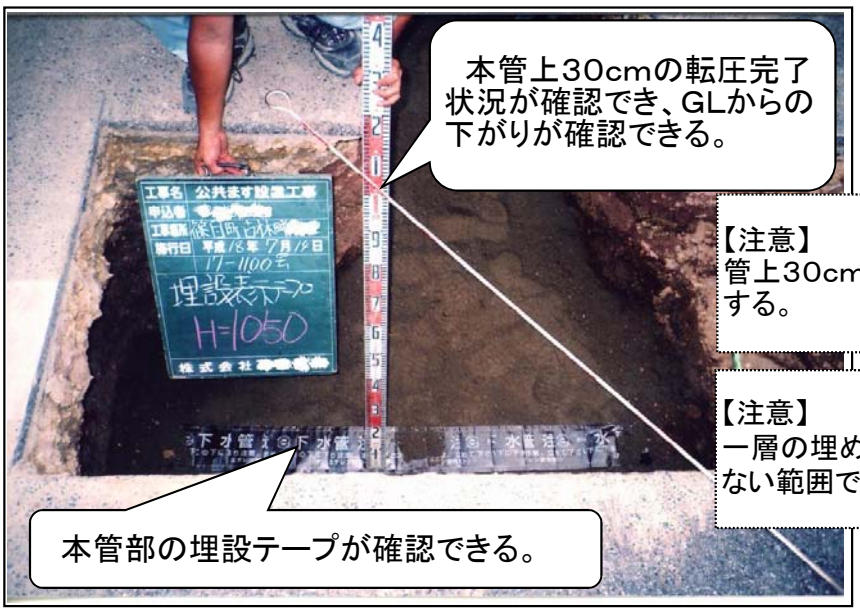
道路境界が確認できる。

【注意】
管上10cmまでは、人力で十分転圧すること。
（管下10cmから管上10cmまでは、細粒改良土）

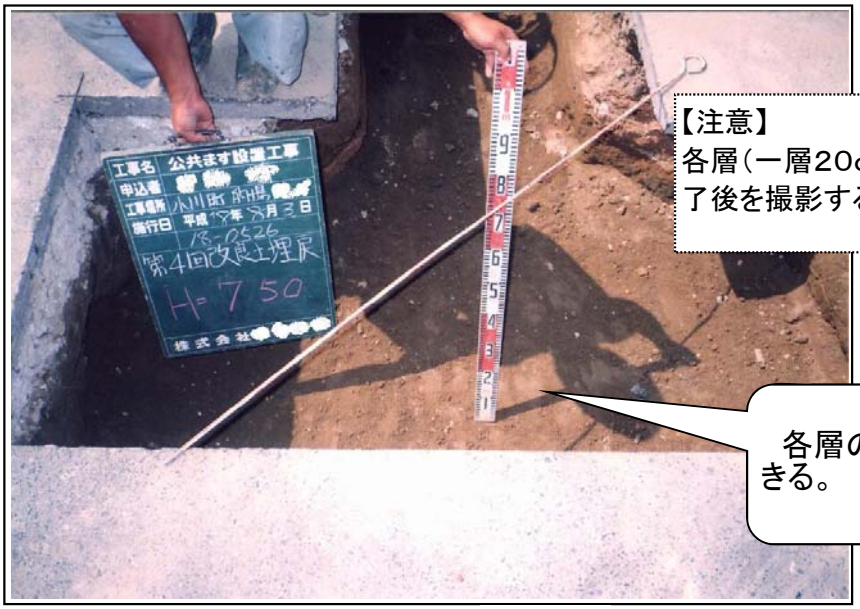
転圧状況が確認できる。

【注意】
人力転圧完了後撮影する。

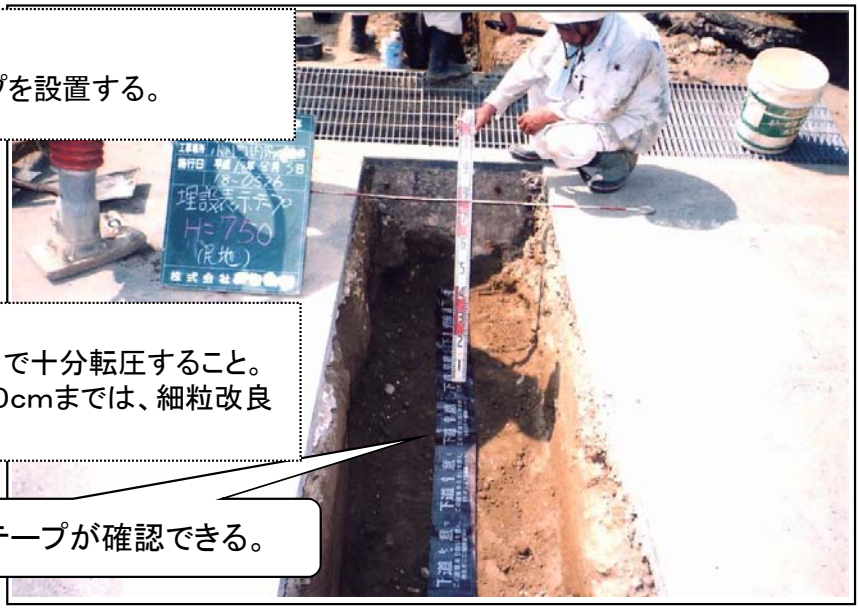
本管上10cmの転圧完了状況が確認でき、GLからの下がりが確認できる。


本管上30cmの転圧完了状況が確認でき、GLからの下がりが確認できる。
【注意】
管上30cmに埋設テープを設置する。
【注意】
一層の埋め戻しが20cmを超えない範囲で十分締め固める。
本管部の埋設テープが確認できる。

【注意】
各層（一層20cm以下）の埋め戻し完了後を撮影する。※転圧状況は不要。
本管上50cmの転圧完了状況が確認できる。


【注意】
各層（一層20cm以下）の埋め戻し完了後を撮影する。※転圧状況は不要。
各層の転圧状況が確認できる。

【注意】
管上30cmに埋設テープを設置する。



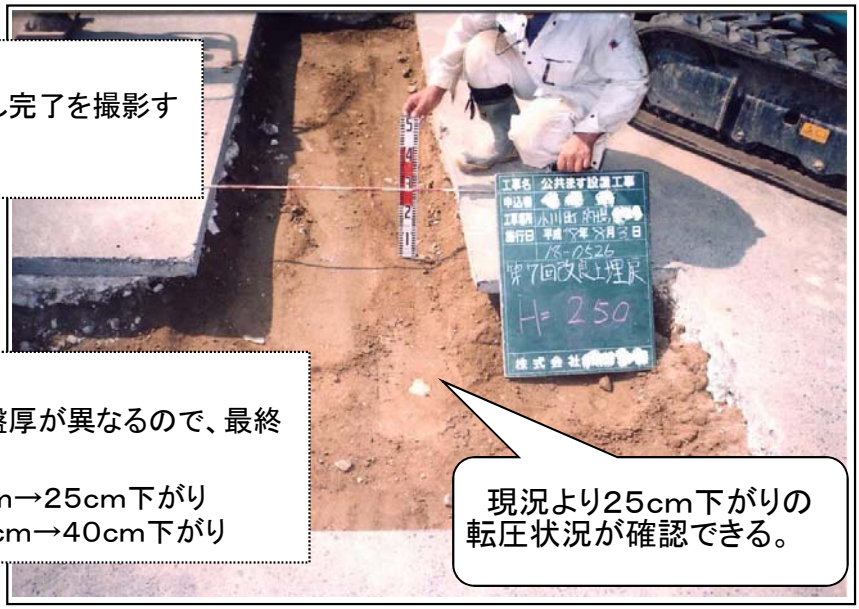
【注意】
管上10cmまでは、人力で十分転圧すること。
（管下10cmから管上10cmまでは、細粒改良土）

取付管部の埋設テープが確認できる。

【注意】
取付管が長い場合は埋め戻しの管理を本管とは別に行うこと。

各層の転圧状況が確認できる。

【注意】
下層路盤までの埋め戻し完了を撮影する。※転圧状況は不要。



【注意】
舗装構成により下層路盤厚が異なるので、最終層の下がりを確認する。
※表層5cm、路盤20cm→25cm下がり
　表層10cm、路盤30cm→40cm下がり

現況より25cm下がりの転圧状況が確認できる。

下層路盤の転圧状況が確認できる。

【注意】
一層の埋め戻しが20cmを超えない範囲で十分締め固める。
※仮復旧舗装が3cmの場合路盤厚が22cmとなるので、必ず2層で転圧すること。

下層路盤の転圧状況が確認できる。

【注意】
交通量に応じて仮舗装厚が変わります。

現況からの下がりが確認できる。

【注意】
仮舗装の範囲は必要最小限にすること。

仮舗装の状況が確認できる。

【注意】
保安設備全体を撮影する。
水道工事等と同時施工の場合は、すべての工事案内板を設置する。

【注意】
道路使用許可申請書に添付した保安設備等を設置する。
※規制内容と標識が整合していること。

【注意】
車両通行止の場合は必ず規制区間の起終点で撮影する。
すべての交通誘導員が確認できるよう撮影する。

交通誘導員が確認できる。

舗装復旧撮影例

【注意】
余白欄は記入しない。
（黒板記載内容の訂正等、説明が必要な場合のみ記入）

【注意】
水道・ガス等の仮復旧がある場合は状況が分かるように撮影する。
ガス等の取出し予定が無いか確認する。

仮復旧の状況が確認できるよう撮影する。

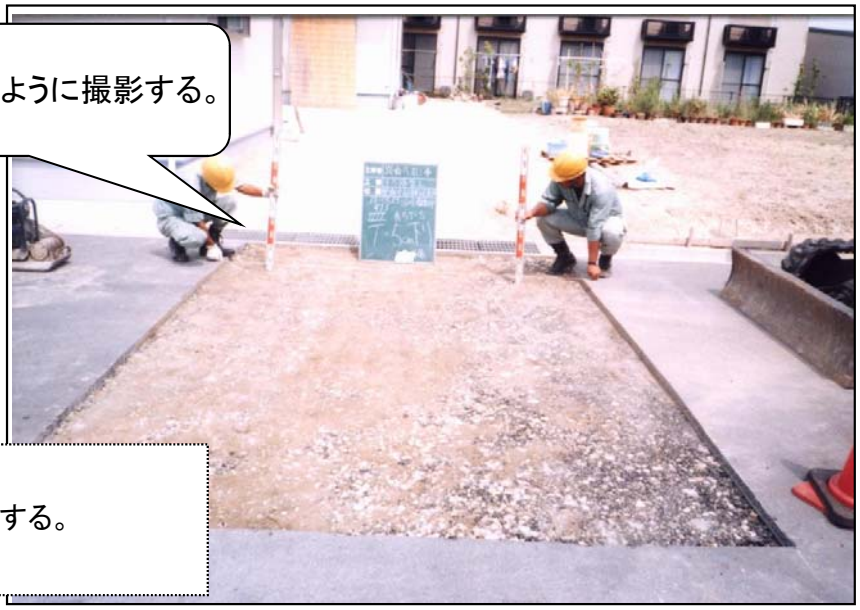
【注意】
舗装着手前と同じ方向から撮影する。
復旧した部分全体を撮影する。

リボンテープ等で復旧面積を検測し撮影する。

濁水処理状況が分かる。

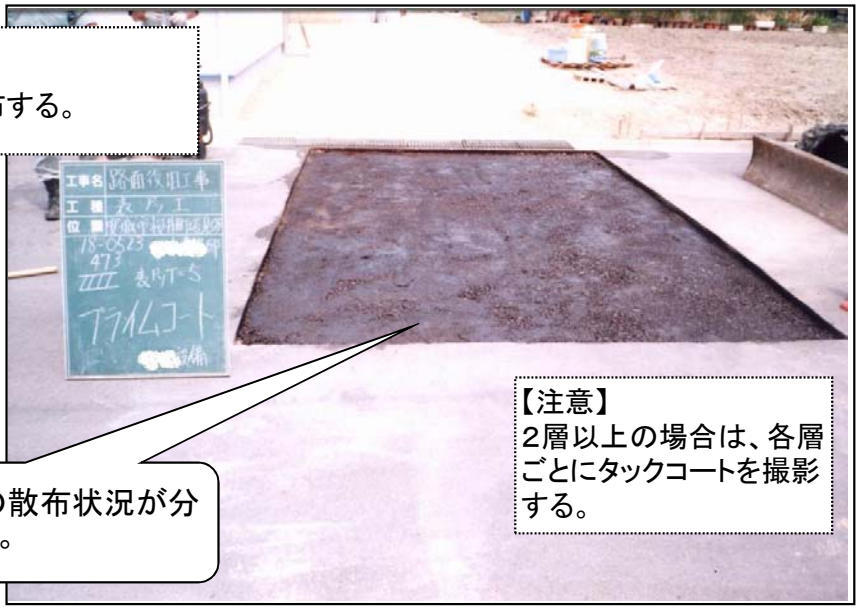
【注意】
処理場の写真又はマニフェストを提示する。

舗設厚が分かるように撮影する。



【注意】
不陸整正後に撮影する。
全景を撮影する。

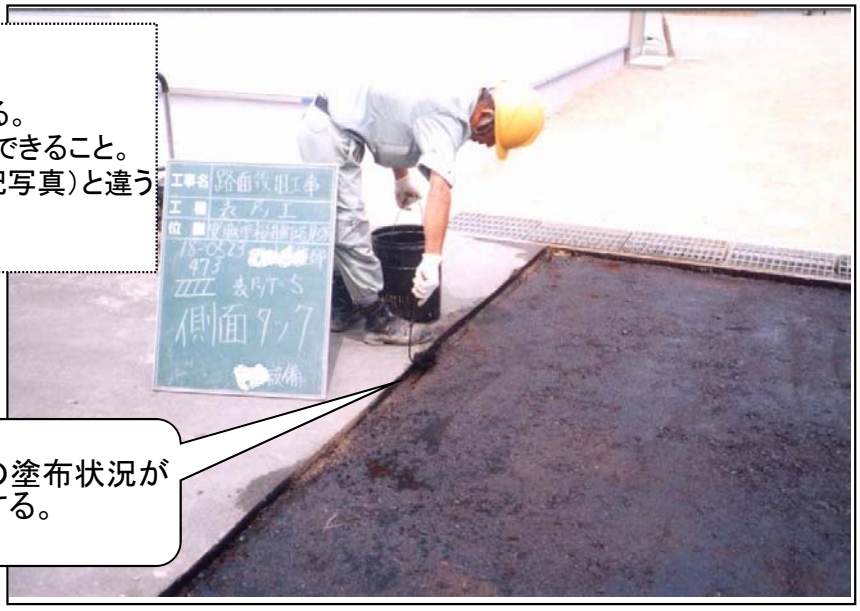
【注意】
全面にムラ無く散布する。



【注意】
2層以上の場合は、各層ごとにタックコートを撮影する。

プライムコートの散布状況が分かるよう撮影する。

【注意】
塗布完了後、撮影する。
すべての側面が確認できること。
※プライムコート（上記写真）と違う方向から撮影する。

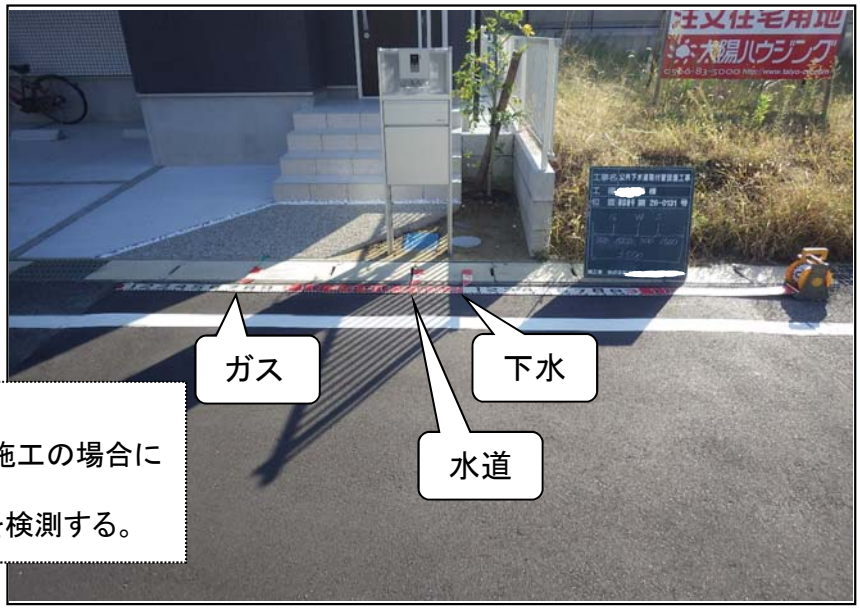


側面タックコートの塗布状況が分かるように撮影する。

舗設状況が確認できる。
工事名 路面復旧工事
密粒AC
【注意】
全景を撮影する。

水道工事をおこなっています
下水道工事をおこなっています
通行止
保安
設備
【注意】
保安設備全体を撮影する。
水道工事等と同時施工の場合は、すべての工事案内板を設置する。
【注意】
道路使用許可申請書に添付した保安設備等を設置する。
※規制内容と標識が整合していること。

交通誘導員が確認できる。
この先工事中につき通り抜けできません
まわり道
保安
設備
【注意】
車両通行止の場合は必ず規制区間の起終点で撮影する。
すべての交通誘導員が確認できるよう撮影する。



【注意】
水道、ガス等と同時施工の場合に撮影する。
※各埋設物の離隔を検測する。